

2017 年利尻山山岳年報（簡易版）

佐藤雅彦（利尻町立博物館）

岡田伸也（株式会社トレイルワークス）

今泉 潤（環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室）

利尻山では、利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、協議会）を中心として、様々な行政機関や民間団体、ボランティアなどが協働しながら、山岳環境の課題への対処を実施している。以下、筆者らが知りうる範囲内で、2017 年における利尻山の記録を書き留めておく。なお、本報をまとめるにあたり、協議会事務局、利尻富士町役場、利尻町役場、稚内警察署駕泊駐在所および杓形駐在所、岡田亜紀さん（利尻町杓形）、などから、事業概要、統計および調査データなどの情報提供をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

1. 登山者数

過去 5 年間の集計を表 1 にまとめたほか、2017 年 6 月から 10 月までの月ごとの入山者数を表 2 に示した。入山者数は調査が開始された 2003 年の約 1.3 万人から 2010 年にかけて半減したのち、2011 年からはゆるやかな増加傾向が続いている。

なお、登山計画書の分析によるシーズン中の入山者数の把握率については、本稿以前の山岳年報発行日以降の最終的な集計値に変更などがあったため、調査開始年の 2009

表1. 年別登山者数の変化（集計日：2018. 2/1）

年		和暦	H25	H26	H27	H28	H29
		西暦	2013	2014	2015	2016	2017
公表値 ^{a)}			7851	7800	8434	8081	8790
カウンター (6-10月)	入山者数	駕泊	7316	6887	7882	7458	8335
		杓形	451	830	534	451	404
		合計	7767	7717	8416	7909	8739
	下山者数	駕泊	7558	7103	8140	7545	8378
		杓形	461	706	409	436	403
		合計	8019	7809	8549	7981	8781
	登山者数	駕泊	7437	6995	8011	7502	8357
		杓形	456	768	472	444	404
		合計	7893	7763	8483	7946	8760
登山計画書 (1-5, 11-12月) ^{b)}		駕泊	39	51	15	-	-
		杓形	0	2	2	-	-
		ほか	45	30	1	-	-
		合計	84	83	18	172	51
全期間 集計	登山者数	駕泊	7476	7046	8026	-	-
		杓形	456	770	474	-	-
		ほか	45	30	1	-	-
		合計	7977	7846	8501	8118	8811
登山計画書(6-10月)で 把握できた人数			3718	3740	5143	4134	4913
計画書による把握率 ^{c)} (%)			48	48	61	52	56

登山者数は従来の算出方法による。「入山者数」「下山者数」の定義のほか、推定方法などは佐藤(2010)を参照のこと。また、登山道補修(株)トレイルワークス)での人数はあらかじめ除いて処理している。

a) 集計期間は1-12月の年区切り、集計方法は「入山者数」(カウンター入山方向計測値(6-10月分)+回収済み登山計画書によって把握できた人数(1-5月、11-12月分))による。

b) 2016年以降、駕泊・杓形の内訳が不明なため、合計数のみを示した。

c) 「登山計画書(6-10月)で把握できた人数」÷「カウンター(6-10月)入山者数」

表2. 2017年における6月から10月までの入山者数(集計日:2018.2/1)

	6月	7月	8月	9月	10月
鴛泊ルート	1624	3106	2378	1123	104
杓形ルート	49	108	139	92	16
合計	1673	3214	2517	1215	120

表3. 利尻島における携帯トイレ販売箇所別販売数(集計日:2018.2/1)

年		2013	2014	2105	2016	2017
利尻富士町	宿泊施設	2043	2166	2537	1931	1964
	商店・コンビニ	260	290	490	500	660
	観光案内所	78	179	141	208	134
	キャンプ場	396	311	319	294	265
	温泉	-	28	30 ¹⁾	42	0
	小計	2777	2974	3517	2975	3023
利尻町	宿泊施設	254	181	221	201	203
	商店・コンビニ	59	63	100	92	67
	観光案内所	1	0	3	3	0
	キャンプ場	4	0	0	0	0
	その他	-	21	0	0	5
	小計	318	265	324	296	275
計		3095	3239	3841	3271	3298

¹⁾ 台帳が残っておらず聞き取りによる概数で集計した

表4. 携帯トイレの年別回収率(集計日:2018.2/1)

年		2013	2014	2015	2016	2017
販売数		3095	3239	3841	3271	3298
回収数	両ルート合計	1333	1956	2690	2493	2877
	鴛泊ルート	1285	1940	2671	2441	2833
	杓形ルート	48	16	19	52	44
回収率(%)		43.1	60.4	70.0	76.2	87.2

行われるかも重要である。トイレマナーは夏以降悪くなる印象があるが、維持管理業務を請け負う(株)トレイルワークスが2017年に確認・処理した携帯トイレの投げ捨てなどは次の通りである:7/12(置き捨て・鴛泊6.5合目ブース・2個)、8/15(投げ捨て・鴛泊4合目付近樹林内・1個)、8/15(置き捨て・鴛泊避難小屋ブース・1個)、8/16(置き捨て・鴛泊9合目ブース・1個)、9/1(直接排泄・鴛泊9合目ブース・1件)、9/21(直接排泄・杓形7合目登山道・1件)。トイレマナーは登山者一人一人の意識に依るため、今後も多様な登山者相にあわせた啓蒙啓発活動を地道に続けるとともに、置き捨て等の模倣者を増やさぬよう、こまめな維持管理が求められる。

3. ストックキャップ

年以降の一覧表を付表として巻末に再掲して把握率の修正とする。

2. 携帯トイレ

過去5年間の携帯トイレの販売数の変化を表3、回収率の変化を表4に示した。

2016年および2017年は、利尻町立博物館と(株)トレイルワークスによる携帯トイレ所持率調査が鴛泊ルート3合目付近にて実施されたほか、アクティブレンジャーによって回収済み携帯トイレの製品別内訳調査も杓形ルートにて初めて実施された(佐藤ほか、2018)。

携帯トイレシステムの円滑な運用のためには、所持・利用率を高めるとともに、利用後の処理がいかに適切に

「利尻ルール」のひとつである「ストックにキャップをつける」については、これまで販売数の変化を記録するに留まり、その検証や調査が行われたことはなかった。そこで、岡田亜紀さんと筆者らの一人の岡田は、2016年から2017年にかけて目視によるストックキャップ装着率の調査を実施した。その結果、2016年は357人の登山者中、ストックの所持率は35%、そのうちキャップ装着率は91%、2017年は680人の登山者中、ストックの所持率は60%、そのうちキャップ装着率は92%と、いずれの調査年でもストックを使用している登山者のキャップ装着率は極めて高いことが初めて明らかとなった（岡田、未発表）。

4. 登山道における施設及び器機などの設置状況

携帯トイレブース、標識及び案内板については、保守のための塗装が行われた。カウンターについては、設置位置や数に変更はない。

5. 関係機関およびその活動などの特記事項

協議会の総会は、2017年内には開催されなかった。

鴛泊ポン山や北麓野営場、杓形旧登山道などが含まれる利尻島内の自然休養林について、利尻島自然休養林管理運営協議会の設立総会が2017年11月22日に利尻富士町役場にて開催された（日刊宗谷、2017）。事務局は利尻富士町産業振興課および建設課、利尻町まち産業推進課である。

6. 事故・遭難

鴛泊駐在所における聞き取り調査により、2017年の山岳遭難などを表5にまとめた。同駐在所では、軽装備、食料・水不足などの初心者的な遭難もあることから、登山者自体は

表5. 2017年遭難救助出動実績

月日	救助出動	通報時の態様	救助地点	年齢	性別	住所	パーティー人数	組織/未組織の区分	概要	登山届提出
7/4	島内駐在所2名が鴛泊登山口で待機	脱水症状	鴛泊・標高940m	45	男	茨城県	1	非組織(個人)	下山中に飲料水を飲み干して脱水症状を起こしたため、自ら救助要請。しかし、その後ほかの登山者から水を分けてもらい回復し自力下山。	○
7/7	北海道防災ヘリ、島内駐在所、利尻富士町消防、利尻富士町役場から合計15名	脛部裂傷	鴛泊・標高1580m	62	女	東京都	5	組織(ツアー)	下山中、両ルート合流点下部で転倒した際、登山道上の尖った石に当たり脛に裂傷を負う。ツアーガイドが救助要請。ヘリで救助された。	○
7/10	島内駐在所2名、利尻町消防1名、利尻町役場1名、民間1名	道迷い	杓形・親不知子不知	74	男	兵庫県	1	非組織(個人)	ガスによる視界不良で正規ルートから逸脱。岩場で進退窮まり、自ら救助要請。岩場から救出された後は、救助隊とともに自力で下山。	○
7/24	島内駐在所2名、利尻富士町消防3名	足首捻挫	鴛泊・5.5合目付近	69	女	広島県	2	非組織(個人)	下山中、鴛泊5.5合目付近で浮き石に乗って体勢を崩し、足首を捻挫。搬送救助された。	○
8/31	島内駐在所2名、利尻富士町消防2名、民間2名	足の怪我	鴛泊・6合目	30	男	カナダ	1	非組織(個人)	山頂付近で転倒して足を負傷。自力で下山した6合目で、下山不可能と判断して自ら救助要請。救助隊に同行されつつ自力下山した。	○

上記表は、稚内警察署鴛泊駐在所および杓形駐在所からの聞き取りによる。

もちろんのこと、島内の宿が、宿泊する登山者に対して装備品のチェックを声かけすることだけでも、遭難件数はだいぶ減少することが期待されるだろう、との話であった。

7. その他

ネコの高山帯への徘徊：駕泊ルート8合目上部で、8～9月にかけて一匹の特定のネコの徘徊が頻繁に確認された。目撃例からこの個体は山麓の市街地から自力で登り降りしていることが想像され、高山帯に生息する在来生物の捕食などが心配された。避難小屋付近での登山者による餌やりも窺われたことから、協議会は、ルート上に餌やり禁止の掲示物を貼付して注意を促した。

参考文献

日刊宗谷，2017. 適切な森の利用 管理運営協設立 利尻島自然休養林. 日刊宗谷，2017年11月21日.

佐藤雅彦・岡田伸也・今泉潤，2018. 利尻山における携帯トイレの所持率. 利尻研究，(37): 83-88.

付表. 登山計画書による入山者数の把握率の変化(集計日:2018.2/9)

年		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
計画書記載人数	一般登山者	3398	3063	1799	1988	2693	2928	4527	3524	3987
	山岳会	448	260	127	264	283	147	71	205	296
	ツアー登山	1058	578	474	693	742	665	545	405	630
	合計	4904	3901	2400	2945	3718	3740	5143	4134	4913
カウンター(6-10月)入山者数		8824	6680	6995	7351	7767	7717	8416	7909	8739
把握率(%)		56	58	34	40	48	48	61	52	56